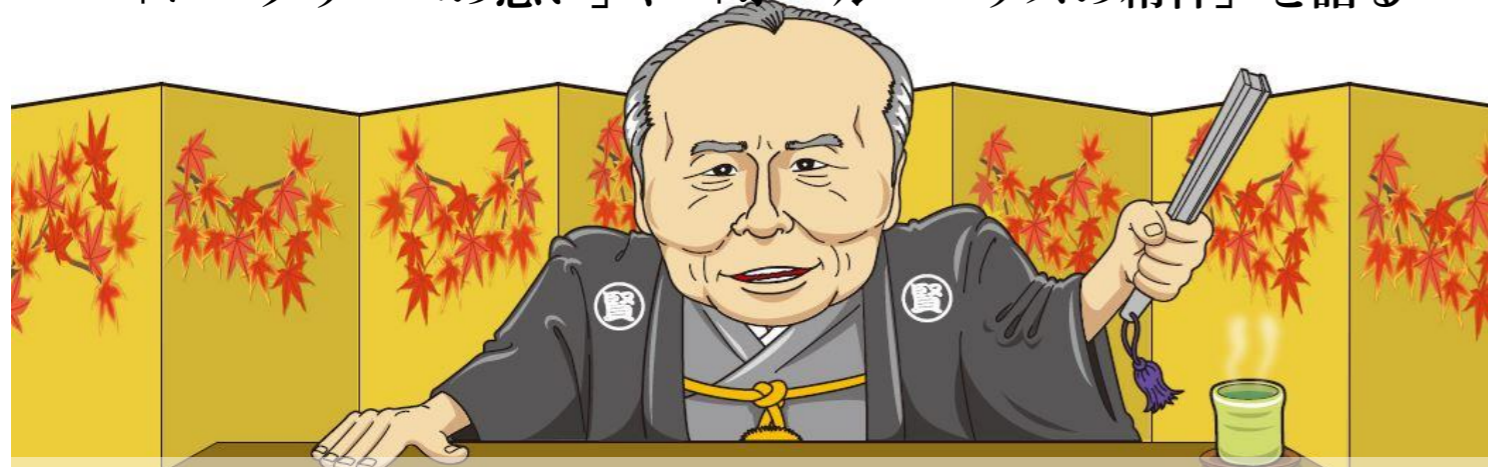


# 田中賢三2780地区ガバナーご来臨!!

「ロータリーへの思い」、「ポール・ハリスの精神」を語る



松下会長は会長挨拶で、今回も全員参加型で精度の高い例会運営を目指すことを語り、そのためには例会に出席して欲しい、例会は完結型でなく毎回の例会は繋がっている、と力説した。また、今年度のセカンドクォータースタート時に田中ガバナーが来訪されたことは、意義深く幸運な事だと結んだ。

続いて委員会報告。相澤翔太会員から国際交流フェスタ、大澤会員から花火例会、高木会員から地区青少年交換及び戦略計画、青木会員から国際大会についてそれぞれ報告がなされた。

田中ガバナーの卓話に先立ち、瀧澤AGから田中ガバナー

- 19:00 点鐘  
国家斉唱  
0-リソク 斉唱 「奉仕の理想」  
四つのテスト  
来賓・ビジター紹介  
田中 賢三ガバナー (茅ヶ崎RC)  
瀧澤 秀俊AG (藤沢RC)  
テイ・ウンジョさん (米山奨学生)
- 会長挨拶  
委員会報告  
スマイル報告 新倉基金報告  
出席率報告

19:00 田中ガバナーの卓話

19:30 点鐘

終了後 ガバナーと会員の懇話会



挨拶をする松下会長



↑「ロータリーへの思い」を語る田中ガバナー

←田中ガバナーのご紹介、卓話主旨を話す瀧澤AG

のプロフィール、今会の卓話のテーマ「ロータリーへの思い」「ポール・ハリスの精神」について紹介があった。

さていよいよ田中ガバナーが登場され、ナンと第一声は歌から、そして卓話がスタート。

最初の言葉「万年青年の田中です。」は、後に語られる「奉仕に学ぶ」、つまりガバナーご自身も今も学んでいるということか。

ロータリーは奉仕団体ではなく、奉仕を通じ自己を高める人たちの集まりである。自分、家族、そして事業に役立てるのがロータリーであると説かれた。だからこそ積極的にクラブ活動に参加し、ロータリーを楽しむべきと語り、「例会を1回欠席すると自己の成長が1回止まる」というポール・ハリス氏の言葉を紹介された。

また、メーキャップについても奨励され、メーキャップ参加は足を運ぶからこそ学びがあり、それは事業の運を掴むのと同じだと語られた。

当クラブについては、戦略計画策定の試みやクラブの品質向上の努力についてお褒めの言葉をいただいた。

その後、ロータリー財団や米山記念奨学会の意義、奨学生の成長プログラムについて、また公共イメージの重要性等について話していただき、卓話は終了した。

点鐘の後、ガバナーとクラブ会員の懇話会が開かれ、会員から質問された奨学生選考への疑問や、公共イメージについて、詳しく答えていただき、出席した会員にとり「学びの多い」時間となった。

地区大会が間近に迫り忙しいこの時期に貴重な時間を延長し、これからの当クラブにとって大変重要なお話をしていただき、心から感謝を申し上げたい。

スマイル報告

22,000円

新倉基金報告

5,000円

出席率報告

59% (22/38)

個性豊かな当クラブのメンバー名鑑

星野朱妃子さん Akiko Hoshino

シリーズ  
ふじさわ湘南  
ロータリアン  
その10



「原始、女性は太陽だった。」  
チャーターメンバーで唯一の女性である星野さん。ロータリーと女性の歴史を少し調べてみた。1964年、RIにセイロン(現スリランカ)RCから女性の入会を認める制定案が出されるも否決。その後幾度となく入会を認める試みがなされるが、最後は最高裁にまで持ち込まれ、「男性に限る」という項目が削除され正式に入会が認められたのは何と1989年という。星野さんは7月のチャーターメンバーによる卓話で、メーキャップ時に他クラブで女性差別を受けた経験をお話しされていた。21世紀に何という時代遅れな事か。ふじさわ湘南RCには発足当初多くの女性会員がいて皆輝いていたという。しかし何故か今は当時の女性メンバーで残っているのは星野さんだけだ。会員が増え続け進化している現在のふじさわ湘南RCも、こと女性会員に関しては停滞しているということか。当クラブも「女性が太陽である」クラブになればより輝きが増すだろう。